

繼續事業評価調書

【林道整備事業】

森林基幹道 須留ヶ峰線

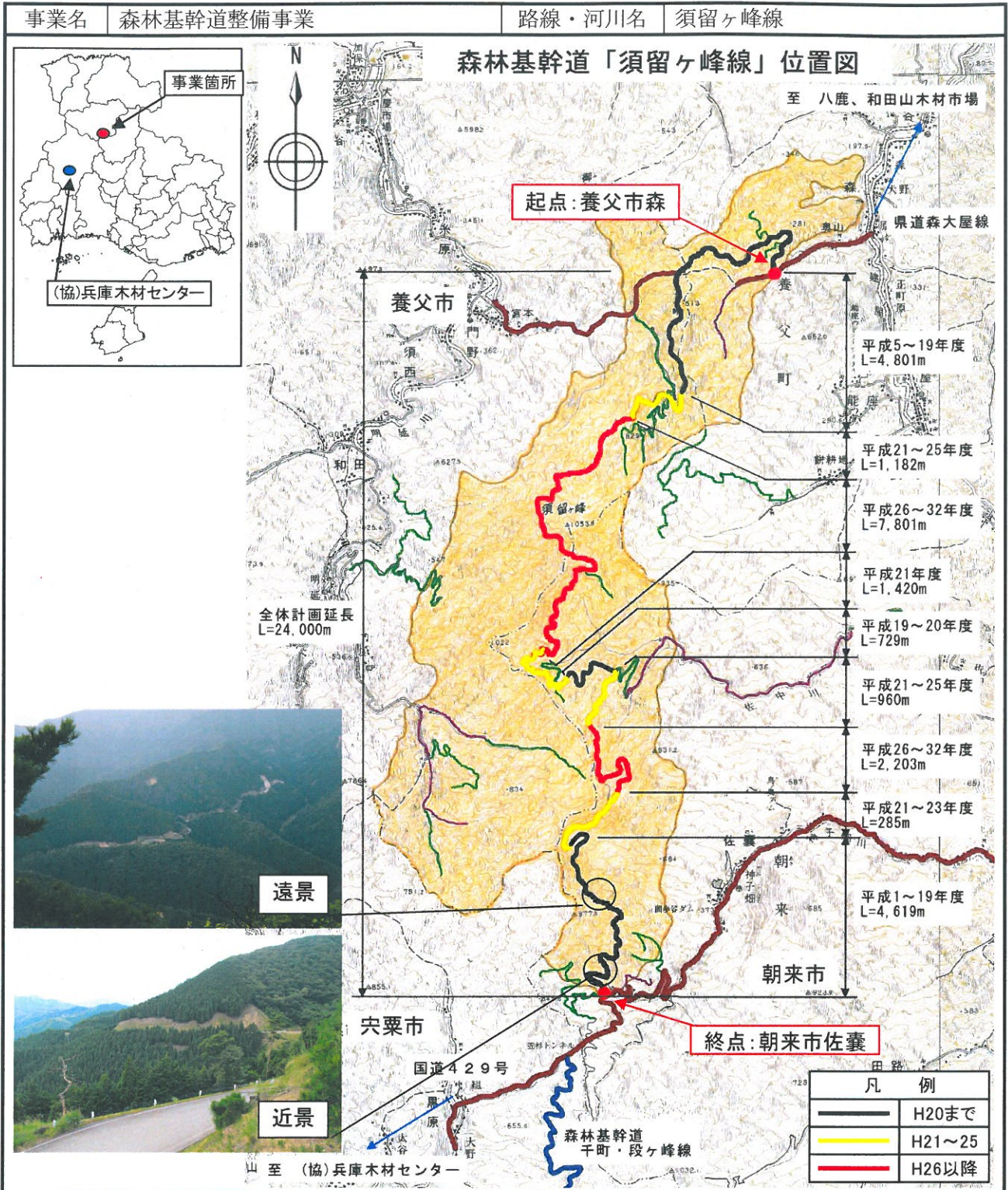
農政環境部

農林水産局 治山課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

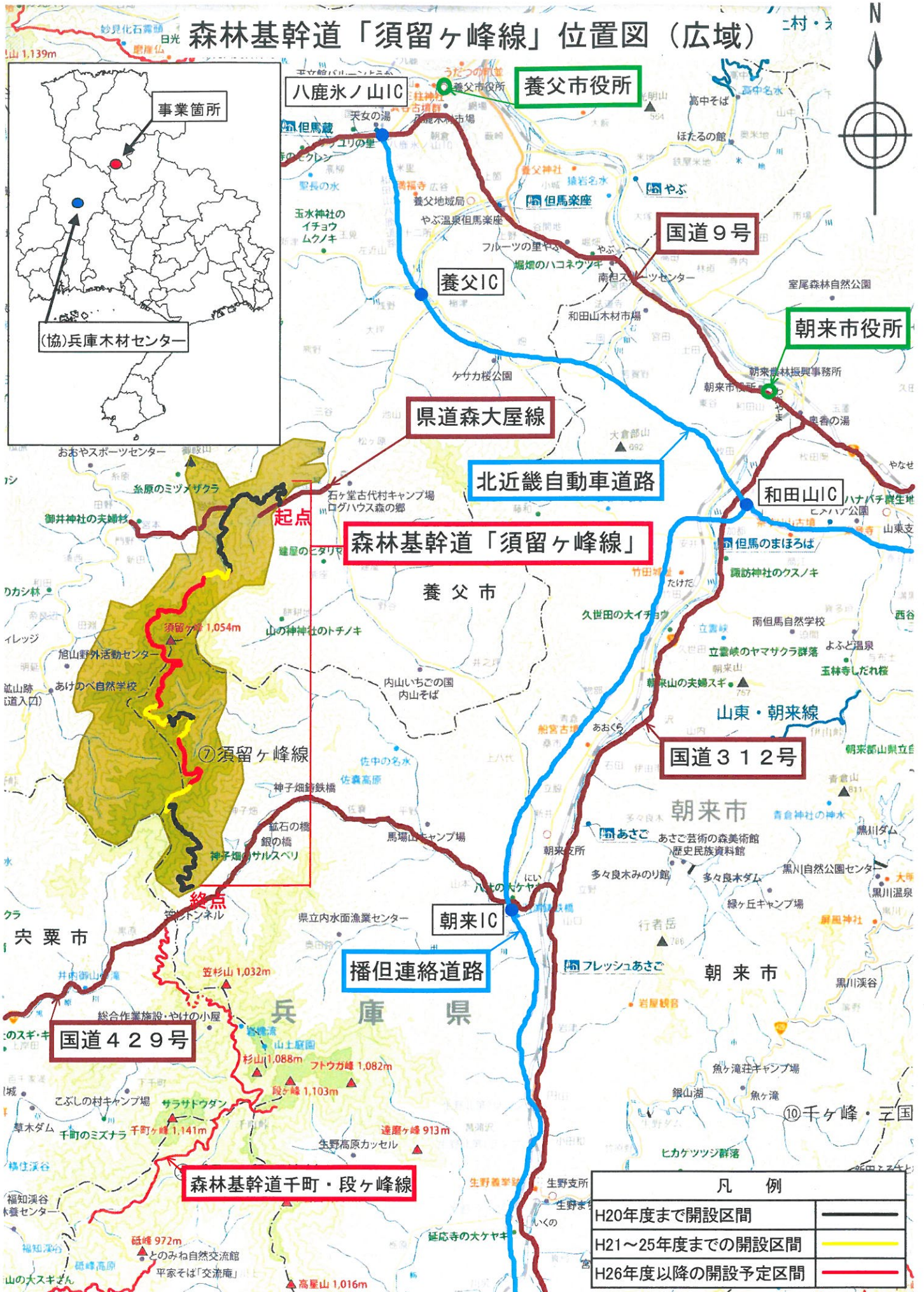
部課室名	農政環境部農林水産局 治山課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	治山課長 西原 玲二 (林道係長 前嶋 昭)	内線	4128 (4134)
事業種目	林道整備事業	新規評価年度	—	現計画	前回評価時点
事業名	森林基幹道整備事業 須留ヶ峰線	事業採択年度	H元	総事業費	約69億円
		着工年度	H2	内用地補償費	—
		再評価年度	H10, H15, H20	完成予定年度	平成32年度
事業区間	養父市森～朝来市佐囊	進捗率 (内用補進捗率)	62% (—)	49% (—)	
		残事業費	約26億円	約35億円	
事業の目的			事業内容 ※前回評価時点と変更なし		
須留ヶ峰線は、但馬地域南部の県道森大屋線(養父市)と国道429号(朝来市)を結ぶ林内路網の骨格であり、当林道の活用により県産木材の安定供給等の林業振興や水源かん養、山地保全、環境保全等の森林の有する多面的機能の持続的発揮、山村地域の活性化を図る。			林道整備：延長24,000m 幅員5.0m 〔負担割合 国:50%, 県:40%, 市10%〕		
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	①当林道周辺の森林資源(人工林の材積の蓄積)の充実が進んでいる。 ②平成22年度に(協)兵庫木材センターが完成し、原木集積、加工、流通を一貫して行う県産木材の供給体制が本格稼働している。 (原木取扱量 H22年度23千 ^m 、H23年度104千 ^m 、H24年度115千 ^m) ③県では、公共施設等の木造・木質化に加え、木質バイオマスの利活用の促進など、県産木材の利用拡大対策を進めている。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 変更なし				
進捗状況	全延長24kmのうち、約14.0km(58%)が供用開始予定。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H20年度再評価)	【審査会意見】 継続妥当 (協)兵庫木材センターや林道の整備に併せて、①低コスト経営団地化の推進、②施業プランナー等専門的知識を持った人材の養成、③県産木材需要への関心の喚起等のソフト施策について、十分な取組を期待する。	【対応方針】 ①低コスト原木供給団地を2箇所設定した。②施業プランナーを7名育成した。③各種イベントで木材製品の普及啓発を実施した。これらに加え、「ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づく林道、作業道の開設と、「新ひょうごの森づくり」に基づく間伐等の森林整備により、森林の持つ多面的機能の高度発揮を図る。			
(1) 必要性	①当林道は、利用区域内に1,617haの人工林を抱え、うち伐採利用が可能な8齢級以上の森林は1,250ha(全利用区域面積の49%)となっており、これら人工林の伐採、利用、植栽、保育の林業生産サイクルを円滑に循環させ、森林の多面的機能を持続的に発揮させる「資源循環型林業」を構築するための重要な基盤である。 ②利用区域内で低コスト原木供給団地の設定が進むとともに、作業道等2,817mの整備や高性能林業機械が新たに8台導入される等、効率的で安定的な原木供給に向けた体制が整ってきており、当林道を活用した木材搬出の増大が見込まれる。 ③利用区域内における人工林の下刈りや間伐等の森林整備が H25年度までに延べ1,292ha実施され、木材生産だけでなく水源かん養機能等の多面的機能の持続的な発揮も図られている。 ④第4次地震防災緊急事業5ヶ年計画において、当林道から千町・段ヶ峰線へと続く林道は、南但馬地域と中播磨地域を結ぶ避難路として位置づけられている。				
(2) 有効性 効率性 (執行環境状況)	①費用便益比B/C=1.7(前回評価時2.2) ②地元森林組合や播但基幹林道開設促進協議会から早期完成の要望が強く、事業継続への協力体制も整っている。				
(3) 環境 適合性	①地形の改変を少なくする波形線形の採用により、切土・盛土面積を軽減している。 ②小動物の生息環境に配慮したスロープ付きの排水路を設置している。 ③県内産間伐材を落石防護壁や、土砂の流出・逸散防止柵へ有効利用している。 ④外来種子の使用制限や、埋土種子・飛来種子による法面緑化を実施している。 ⑤猛禽類調査の結果を基に専門家と協議し、猛禽類の繁殖活動等に影響を与えないルートに変更して工事を進めている。				
(4) 優先性	(協)兵庫木材センターの本格稼働にともない、県下では新たに年間126千 ^m の原木供給が必要となる。当林道沿線では H21～25年の5年間で搬出間伐、皆伐で約8千 ^m の原木搬出が進んでいるが、残計画区間に広がる森林の整備と木材搬出のためには、早期に全線供用開始する必要がある、優先性が高い。				
再評価の結果	継続	理由 事業の必要性については、利用区域内の森林資源の充実や原木供給体制の整備が進んでいることから、材の搬出基盤となる当林道は、継続して事業を実施する必要がある。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第4回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 (H1～32)	【事業費＝69億円】 森林基幹道 W=5.0m、L=24,000m	利用区域内人工林 1,617ha の整備
前回再評価まで (H1～20)	【事業費＝34億円】 森林基幹道 W=5.0m、L=10,149m	H5～H20までの実績 主伐 -ha、間伐 693ha 造林 2ha、保育(下刈等) 408ha
過去5年間 (H21～25)	【事業費＝9億円】 森林基幹道 W=5.0m、L=3,847m	H21～H25までの実績 主伐 18ha、間伐 145ha 造林 18ha、保育(下刈等) 8ha
今後7年間 (H26～32)	【事業費＝26億円】 森林基幹道 W=5.0m、L=10,004m	今後7ヶ年間の計画 主伐 25ha、間伐 200ha 造林 25ha、保育(下刈等) 140ha

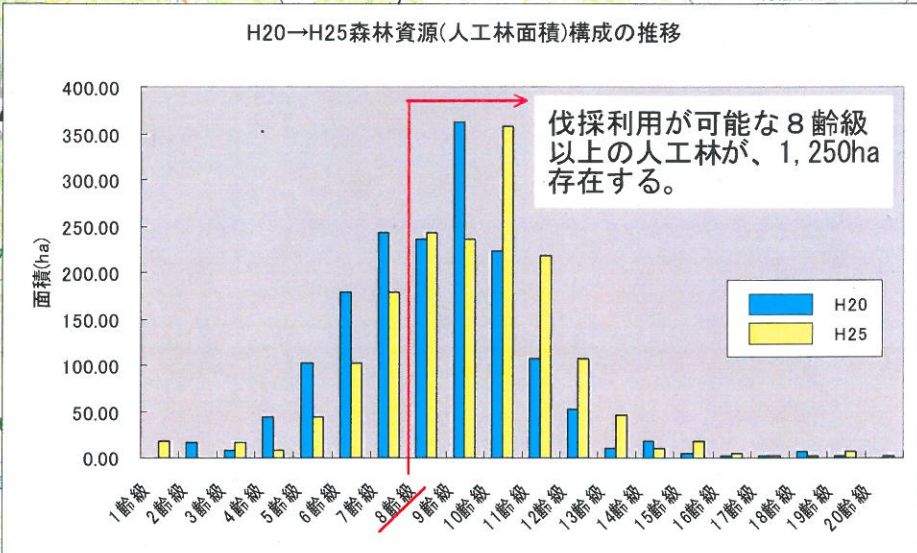
森林基幹道「須留ヶ峰線」位置図（広域）



森林基幹道「須留ヶ峰線」 森林現況と(協)兵庫木材センターの位置関係

凡 例		
利用区域		
再評価対象路線	H20年度まで開設区間	
	H21～25年度までの開設区間	
	H26年度以降の開設予定区間	
国道		

森林基幹道須留ヶ峰線



(協)兵庫木材センター